

令和7年度 第2回神戸2030ビジョン推進会議

－議事要旨－

日時：令和8年1月14日（水）10:00～12:00

場所：神戸市役所1号館14階 大会議室

<出席者>

氏名	役職
(会長) 品田 裕	神戸大学大学院 法学研究科 教授
石川 路子	甲南大学 経済学部経済学科 教授
稲垣 賢一	一般社団法人 兵庫県中小企業診断士協会 理事
佳山 奈央	La vie est belle 株式会社 「おやこの世界をひろげるサードプレイス PORTO」代表
佐合 純	iC 株式会社 代表取締役
竹内 友章	関西福祉科学大学 社会福祉学部社会福祉学科 講師
中野 みゆき	特定非営利活動法人 Oneself 理事長
中村 浩一郎	株式会社三井住友銀行 公務法人営業第二部 部長
中村 優子	P&G イノベーション合同会社 代表社員職務執行者 P&G R&D ヴァイスプレジデント 神戸研究所所長 シガポール研究所長
松下 麻理	Artist in Residence KOBE (AiRK) 一般社団法人 ハイム 代表理事
村川 勝	一般社団法人兵庫県中小企業家同友会 代表理事
山瀬 敬太郎	兵庫県立大学環境人間学部 教授

<欠席者>

加藤 明	連合神戸地域協議会 議長
平田 恭子	西日本旅客鉄道株式会社 理事 (近畿統括本部副本部長・兵庫支社長)

(敬称略)

1. 開会

2. 議事（1）神戸 2030 ビジョン（素案）について

<事務局>

－資料 2、3 に基づき説明－

<会長>

- ・今回は KPI の定義や指標について新しい内容があるかと思うが、全体について質問やご意見があれば伺いたい。

<委員>

- ・前回の意見を反映し、スタートアップについて「大学発」と明確に修正いただき感謝する。全体として、現状の方向性そのまま進めて問題ないと思う。今後はこの内容をどのように広く認識してもらうかが課題である。神戸市が KPI を掲げるだけで終わってしまうのはもったいない。計画の推進に向けて参画したいという企業や個人が多くいると思う。我々もそういった方が参画意識を一段と高めることができるよう、神戸市と一緒に取り組みを進めていきたい。ちなみに、現時点で、今後の進め方で何か考えていることはあるか。

<事務局>

- ・この計画は作って終わりではなく、市民や企業から広く理解を得て、ともに進めていくことが重要である。来年度以降の取組みについては検討段階ではあるが、今年度のワークショップの実施を通じ、来年度以降も協力したいと仰ってくださっている企業や団体もあるので、委員みなさんの知恵や力も借りながら一緒に取り組んでいければと考えている。

<会長>

- ・基本計画を作るにあたって、100 回を超えるワークショップを実施したことは非常に良かったので、今後も続けてもらえたらと思う。

<委員>

- ・KPI「海外展開に取り組む企業の割合」について、現状神戸市が全国平均より低いという点に驚いており、その背景を知りたい。この KPI は神戸全体の GDP や大学・高専の新卒者の市内就職率などの別の指標にも影響するため、重要だと考える。

<事務局>

- ・海外展開企業の割合については、国全体としては東京が突出して高いほか、地方空港を有する都市で高い傾向が見られる。神戸の場合は、国際線がなかったということもあり 10%程度に留まっているのではないかと考えている。今後については、国際定期便の就航により、海外に展開する企業の割合を高め、連動して市内就職率の向上にもつなげていきたいと考えている。

<委員>

- ・この KPI は、2030 年を待たず、できるだけ早く 15%を達成し、さらに高い目標を設定できるようにすれば良い。

<事務局>

- ・大企業は海外と直接取引がある一方で、中小企業ではこれまで海外と直接つながる機会が比較的少なかった面があるかもしれない。今回の指標については、“割合”で評価しているため、中小企業が中心となっている神戸では、数値が相対的に低く見えやすいと推察している。

<委員>

- ・市民への浸透が大前提として大事であるが、市役所の各部局の職員にも理念が浸透するようにしていただきたい。各部局の予算要求が本当にビジョンに即したものになっているかを毎年確認しながら進めてほしいと思う。行政は職員の人事異動も早いですが、体制が変わっても軸がぶれない組織であってほしい。

<事務局>

- ・ご指摘のとおりである。前回の計画では内容が多岐にわたり、KPI が 100 項目以上と多くなっていたため、各 KPI の設定理由も次第に薄れていく状況となっていた。そのため、今回の計画は、市民にとってわかりやすいというコンセプトで作っているが、同時に職員にとってもわかりやすいものを目指して作成しており、KGI に寄与する KPI を約 20 項目に厳選した。どのような予算を立て事業を執行し、結果、KPI の各項目がどのような数値となったのか。この毎年のローリングについては、委員の皆さんに引き続きチェックしていただきたい。検証を重ね、必要に応じて見直すことも含め、この計画が意味のあるものになっていると職員が感じてこそ、組織としても KPI の達成に向けた姿勢がより確かなものとなり、適切な予算要求や事業執行につながる。引き続き委員の皆さんのご意見やご指摘を活かしつつ、全庁で共有して取り組みを進めていきたい。

<会長>

- ・計画を伝えていくにあたり、職員にはファシリテート能力を身に付けほしいと思う。論理的な体系設定が今回の計画の重要なポイントの 1 つだと思う。

<委員>

- ・今後は方向性ごとの KPI に合わせて予算と施策を立てていくというイメージでよろしいか。その方が達成状況のモニタリングもしやすくなるので、今後の予算編成ではその点を意識してほしい。

<委員>

- ・里山林管理について、具体的な数値目標を設定した点を非常に評価している。森林資源の循環量として、目標値の 300 m³は小さいかと初めは感じたが、スタートとしてはこれでも問題ないと思う。数値だけにこだわると資源活用だけに目が向いてしまう可能性がある。里山そのものの循環が重要であり、時間がかかる事業であることを押さえた上で進める必要がある。

<事務局>

- ・この分野の課題は長期的かつ体系的な検討が不可欠である。ビジョンを掲げるだけではなく、それに基づく具体的な戦略を事業部局で策定し、継続的に取り組む必要がある。また、単なる数値目標の達成ではなく、都心の近くに里山があるという神戸の魅力を守るため、里山の循環という本質的な課題を認識しながら今後の施策を推進していく。

<委員>

- ・方向性ⅠのKPI「大学発スタートアップ創出数」については、単に起業数を追うだけでなく、持続的に成長し地域に貢献できる企業を育てる支援が重要だと考えている。この点で神戸市が全国に先駆けてできれば面白いと思う。また、若手や小規模事業者でも海外展開への意識は高まっていると感じているので、そうした人たちへの働きかけも進めていただきたい。

<事務局>

- ・「大学発スタートアップ創出数」の指標のみで経済的な指標の達成を考慮せず、神戸に根付く既存企業・新たな企業の誘致・起業、この3つで産業力が維持・拡充していくものと見ている。起業した企業が収益を上げ成長していかなければ、KGIとして設定しているGDP創出には寄与しない。そのため、企業の事業継続性を高めていくことが重要であり、この点は経済政策部門にも共有しておく。また、小規模企業の中にも海外展開への関心があるとの情報をいただいたため、この点についても併せて関係部局へ共有する。

<委員>

- ・スタートアップは3年後に半数、10年後に1割程度しか残らない現実があるので、GDPへの寄与という観点では慎重に見つつ、必要に応じてKPIは途中で見直しも検討していただきたい。
- ・「農村地域での農業参入・起業・移住数」についても、5年間でどのように変化するのか注視し、効果が出なければKPIの見直しも検討すべきだと考える。
- ・「駅勢圏」のDID地区は具体的にどの町・駅が含まれるか教えてほしい。

<事務局>

- ・スタートアップ支援については、調査・分析し、起業が活発に起こる土壌づくりをしっかりと進めていきたい。
- ・「農村地域での農業参入・起業・移住数」の目標値については、神戸の魅力である里山・農村を維持するために、ここ数年の努力を継続する形で設定している。KPIは単に達成見込みがないから目標を下げるというのではなく、予算や事業の効果を検証し、それでも適切でなければ変更する形でローリングしていきたい。
- ・DID地区とは、人口密度が1平方キロメートルあたり4,000人以上で市街地の中心的なエリアのことを言い、神戸市全体の約3割を占める。駅については、周辺に居住エリアが少ない7駅を除く131駅がこの地区に含まれる。これらの乗降客数を集計し、数値をしっかりと維持していくことを目標としている。

<会長>

- ・「大学発のスタートアップ創出数」が120件という規模では、直接的なGDPへの寄与は難しいかもしれないが、重要なのは知の集積が技術に結び付き、ネットワークが形成されることだ。これにより地元の中小企業や海外と結びつくことで、神戸から大きな革新が起こることを期待している。

<委員>

- ・方向性Ⅲの「地域活動の活性度」について。地域のために活動したい市民と、手伝ってほしいという団体がマッチングするイベントも開催されているが、参加できる団体や市民には限りがある。自身の

興味・関心に合う団体を見つけるためにも、イベント後に「地域貢献相談窓口」の広報を強化すべきだと感じた。広報も地下鉄では見たが、JRにはなかった。

<事務局>

- ・「ともに乗り越え育んだ絆」と掲げたとおり、神戸には地域で支え合い、地域貢献を望む方が多いことが特徴の一つである。そのため、幅広く地域貢献相談窓口を設置したところであるが、市民に知られていないのでは意味がない。具体的な示唆をいただいたので、部局にも共有し、広報を取り組みたい。

<会長>

- ・地域貢献窓口をもって、連携し、組織の風通しを良くしてもらいたいと思う。

<委員>

- ・今回のビジョンはイメージがしやすく、KPIを見てワクワクした。例えば、海外展開を目指すマイルドセットを醸成できるようなイベントを開催してみたいと思った。
- ・方向性Ⅰの「大学発スタートアップ創出数」については、これだけで経済を大きく動かすような単純な話ではないものの、大学都市・神戸として、大学の知見を市民に見える形でビジネスに落とし込むことは重要。売上以外で貢献する部分もあると感じており、県外にも情報を発信し、視察等を通じ、神戸の取組みや大学での研究が知られるようになることも有益である。
- ・方向性Ⅲの「新たな市政課題に対応するために創出した時間数」については、「創出した」という視点が良い。窓口のDXはいきなり切り替えられるものではなく、現場の負担は一時的に増えることもある。そのため、“目の前の負担をどれだけ減らしたか”ではなく“将来に向けてどれだけ余白を作れるか”を指標としていることが素晴らしい。

<委員>

- ・上位計画では、生活困窮者や障がい者などのマイノリティ支援が後回しにされがちだが、今回の計画では方向性Ⅲの中でしっかりと明記されていることが評価できる。
- ・Well-Being 指標が KPI となっているが、社会福祉を評価するのは難しい中で、総合基本計画でこのように目指すべき方向性を提示しているのは、部門別計画を策定する上で大変意味がある。こうべの市民福祉総合計画においてもしっかりとつなげていきたいと思う。

<事務局>

- ・部門別計画との連動性は重要であり、今回の計画においては、策定段階から各部局と情報共有しながら進めてきた。総合基本計画という上位計画を据え、各部門別計画が体系的に一つの計画としてつながる形を目指している。こうしたプロセスが各部局の浸透にもつながると考えている。今後の実行段階でも、関係部局と連動して進めていきたい。

<委員>

- ・KPI は設定が難しいなかで、ここまで作り上げたことに非常に感銘を受ける。KPI は KGI 達成のための指標であり、必要に応じて見直す柔軟性を持つことを記載している点が良い。
- ・部局横断型で目標設定されている点が素晴らしい。通常は1つの部局で達成できる KPI を設定しがちだが、今回は複数の部局が連携しないと達成できない KPI を設定されていることに意気込みを感じ

じる。

- ・ KPI の数値を追う際は、設定理由を念頭に置く必要があり、疑問があれば検証し、変化の激しい時代に合わせて見直すことが重要。KPI は設定して終わりではなく、今後しっかりウォッチしていくべきだと感じている。
- ・ 市民に浸透させる方法について、KPI を達成するための方法を市民に考えてもらうのも方法の1つではないか。例えば、「運動やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合」を増やすにはどうしたらよいか。学生だけでは難しい場合は企業と連携した施策を考えてもらう。それにより、問題を自分ごととして捉える意識づけや、思考力を身に付けることに資するのではないかと思う。自身の授業でもぜひ使いたい。

<事務局>

- ・ 神戸 2030 ビジョンは、完成して終わりではなく、これからがスタートであると再認識したので、気を引き締めて取り組んでまいりたい。総合基本計画を作る中では、市民や企業の方々には多大なるご協力をいただいた。その中での大きな成果は、人のつながりができたこと、そしてシビックプライドが醸成されたことだと考えている。これらのつながりを絶やすことなく、さらに新たな連携も模索しながら、KPI 達成に向けて取組みを進めていきたい。

<会長>

- ・ 今回お示しいただいた神戸 2030 ビジョンの素案について、皆さんにご了解いただいた。パブリックコメントに向けて進めていただけたらと思う。

3. 閉会

<事務局>

- ・ 本日は、計画をつくる段階から運用する段階へと目線が移っており、市民および職員への周知の進め方についてご助言をいただいた。今後は、基本構想・基本計画では十分に触れられていない課題も踏まえ、KPI 達成に向けた施策を検証しつつ予算要求を行っていく必要がある。また、この機会に生まれた人のつながりを活かし、次のステップに向けて知恵を出し合いながら進めていきたいと考えている。引き続きご協力をお願いしたい。